

令和元年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

第1回クライミングアートコンクール

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

「平成29年度教科等に関連づけた体験活動プログラム作成研修」において、体験活動プログラムと図画工作の学習を組み合わせる「主体的・対話的で深い学び」を展開する「クライミングアート（以下CAという）」の指導案を作成したので、全国の小学生を対象に作品の募集を行うことで普及を図る。

2. 事業の概要

（1）応募から審査・表彰の流れ

応募期間	令和元年	6月	1日（土）	～	10月	12日（土）
1次審査		10月	17日（木）			
2次審査		10月	21日（月）			
表彰式		11月	17日（日）			
作品展示		11月	15日（金）	～	11月	26日（火）

（2）応募者

【岐阜県】	高山市立山王小学校	1年生	（1作品）		
【岡山県】	岡山市立東疇小学校	5年生	（88作品）		
	私立就実小学校	1～4年生	（35作品）		
	瀬戸内市立邑久小学校	4年生	（16作品）		
	里庄町立里庄東小学校	4年生	（45作品）		
	美咲町立加美小学校	5・6年生	（65作品）		
	真庭市立草加部小学校	5年生	（8作品）		
【広島県】	福山市立川口東小学校	5年生	（56作品）	全	314作品

（3）企画・運営のポイント

- ① 平成31年4月にCAの巨大指導案を所内廊下に掲示し、施設を利用する指導者にCAについて知らせることができるようにした。
- ② 全国の国立27施設にチラシの配架と募集ポスターの掲示を依頼した。
- ③ クライミングウォール（以下CWという）が活動予定にある小学校に対して、指導時に児童数分のチラシを配布し、実践と応募を依頼した。
- ④ 岡山県小教研図工部会研修会にて、学校現場の先生方にCAを模擬授業で体験してもらい、チラシを配布し、実践と応募を依頼した。
- ⑤ 岡山県小教研図工部会研修会を通して依頼のあった学校へ訪問し、CAの授業を指導して、応募を依頼した。

3. 活動の内容等

(1) 活動の状況



【岡山県小教研図工部会研修会】



【訪問授業】



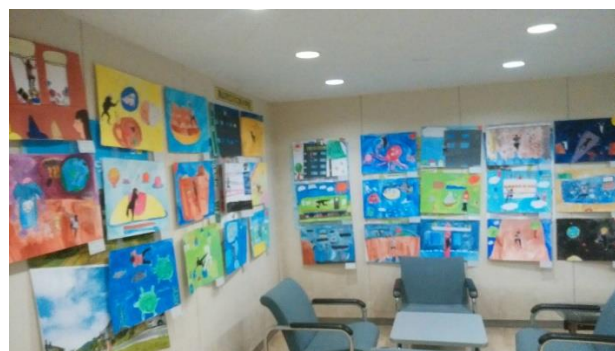
【国立吉備青少年自然の家に届けられた作品】



【1次審査の様子】



【展示された優秀作品】



【展示された作品】



【表彰式】



【乗鞍所長による岐阜県の児童表彰】

(2) 入賞作品

最優秀賞



【日本列島】
草加部小5年/池元大地

理事長賞



【忍者、雲の上の城へ】
山王小1年/梅田啓旦

所長賞



【イルカにのって海の旅】
草加部小5年/森本明日珂

優秀賞



【大家族のUFOキャッチャー】
東疇小5年/米原大晴

優秀賞



【おかしをたべたい】
加美小5年/大賀稜真

優秀賞



【巨大魚におそわれつつ】
草加部小5年/大盛啓太

佳作



【絶体絶命】
川口東小5年/小林紫雲

佳作



【ヘチマの花の音符につかまってたびへ】
邑久小4年/細野なみ杏

佳作



【折れたタワーにのぼるタワー】
東疇小5年/藤原生樹

佳作



【宝山】
草加部小5年/西 真優

佳作



【かいじゅうからにげる！】
就実小1年/井戸奏太

佳作



【エイにのって楽しもう】
里庄東小4年/藤居慎之介

4. 成果・課題

(1) 参加者の声

- ① 撮りためた写真が、学校に戻ってからの図工の作品に繋がるのが良いです。また、作品例を見ただけで指導の流れをつかむことができました。児童たちも早く描いてみたそうにしています。(CWの指導を受けた学校の教員)
- ② CWの途中の人の姿は変わった恰好になるので、図工の作品の素材としてとても面白いと思います。作品づくりの中で主体的で対話的な活動が盛り込んでいるのが素晴らしいと思いました。いろんな学年で挑戦してみても学年に合わせた面白い作品ができるのではないのでしょうか。(岡山県小教研図画工作部会研修会参加者)
- ③ 自分の描いた絵が表彰されてうれしかったです。表彰式は緊張しましたが、良い思い出になりました。(表彰式参加の児童)
- ④ 我が校の児童の作品がたくさん入賞して驚きました。宿泊学習の思い出が図工の作品になり、その絵が賞をもらい、表彰式に参加した児童はその様子を誇らしく話していました。また、学校にまで改めて表彰に来てくださり、子供たちも大変喜んでいました。(応募校校長)

(2) 成果

- ① 全国の国立青少年教育施設に広報の協力を依頼したり、岡山県小教研図画工作部会研修会でCAの講義をしたりしたことで、3県の8小学校から総数314点もの作品を集めることができた。また、その全作品を所内に一斉に掲示することで、コンクールの成果を示すことができた。
- ② 優秀作品の表彰式を行うことで、6名の児童とその家族を国立吉備青少年自然の家に招くことができた。また、所内の一角を表彰式で屋外ステージとして活用することもできた。
- ③ 他県(岐阜県)からの応募に関しては、国立乗鞍青少年自然の家の協力を得て、表彰児童の通う小学校の校長室にて表彰式を行うことができた。

(3) 今後の課題

- ① 第1回の成果を他の国立青少年教育施設に伝え、さらなる理解と協力を得るとともに、より多くの地域にCAが広まるようにしていく。
- ② 今後、今回以上の数の作品が集まることを考えると、作品展示の方法や施設の壁面の改良(画鋏刺付可)を考える必要がある。
- ③ 中学校美術での指導や展開も視野に入れ、コンクールの対象を中学生にも広げる。また、指導者に作品を作っていただくことがCA普及に繋がると考えられるので、コンクールの対象を教職員や指導者にも広げる。

担当：主任企画指導専門職 佐藤 泰之